

住民主体の地域創生プロジェクト－誰もが役割感を持った社会の実現に向けて－

開催概要

本邦では、世界的にも急速に少子高齢化が進んでおり、誰もが互いに人格と個性を尊重し合い、理解し合いながら共に生きていく共生社会を実現することが求められている。我々が専門とする作業療法では、食べること、着替えること、趣味活動、仕事など、人が行うあらゆる活動を「作業」と定義し、対象者の「その人らしい」生活の獲得を目指したリハビリテーションである。高齢者、若年成人からお子さんまで様々な世代を対象としており、個々の特徴や強みを生かし、役割を持って生活を営むことが重要であると考えられている。

本事業の目的は、地域住民が主体となり、住み慣れた地区で役割を持ちながら暮らしていくことのできる環境を構築することである。地域生活を営む住民同士が、様々な世代による役割について検討し、自分たちができることを考え、地域創生を行っていく。我々はその過程をサポートし、自治体や地域商店街など連携し、地域創生への展開を目指す。5年程度の長期的な活動を計画しており、ワークショップおよびセミナーの実施、実際に地域創成に向けたイベントの開催等を予定している。

今年度は、名古屋市名東区西山地区の虹ヶ丘通所リハビリテーションセンター（旧虹ヶ丘介護老人保健施設）を拠点とし、小学生から現役を引退された高齢者まで幅広い世代の参加者を募り、2回のワークショップを実施した。参加者の住むまちの良いところ、課題を抽出し、役割感を持って暮らすことのできる地域社会についての意見出しを行った。

実施担当者

西浦 裕子	医学系研究科・助教・総括
河崎 千明	医療法人白楊会白楊会病院・作業療法士・プロジェクトの計画および実施
石橋 博紀	あむらいふ虹ヶ丘フィールド・施設長・会場提供、実施サポート
細野 裕里子	医学系研究科・博士前期課程2年・プロジェクトの計画および運営協力
加田 千鶴	医学系研究科・博士前期課程1年・プロジェクトの計画および運営協力
寶珠山 稔	医学系研究科・教授・プロジェクトの監修、助言（アドバイザー）

開催場所：医療法人白楊会 虹ヶ丘通所リハビリテーションセンター
医療法人白楊会 白楊会病院

参加者：名古屋大学大学院医学系研究科の大学院生
名古屋市名東区にお住いの地域住民の方々

ワークショップ 1 回目

日時：2025 年 3 月 2 日（日）

場所：医療法人白楊会

虹ヶ丘通所リハビリテーションセンター

内容：住んでいる地域の良さ、課題を抽出し、
理想のまちを検討する。

参加者：17 名



【ワークショップ 1 回目の流れ】

時間	狙い/目標	活動内容/問い
13:30 (10 分)	オープニング	導入 ・ 本事業の目的の共有 ・ 本日のゴールとプロセスの確認 ・ 名東区の取り組み
13:40 (20 分)	関係性を高める	アイスブレイク ・ 自己紹介 ・ 名東区に関するクイズ
14:00 (10 分)	グループ分け	・ 各世代グループ（5 グループ） ・ バズ型（椅子を寄せ合って少人数で）
14:10 (30 分)	アイデアの発散	・ 住んでいる地域の良さについて ・ 住んでいる地域の課題について ※自由に討議 ⇒KJ 法（付箋に書き、内容を発表）
14:40 (15 分)	休憩	・ 多世代グループへ（3 グループ）
14:55 (20 分)	アイデアの共有	・ 自分たちの世代で出てきた話題を共有 ⇒理想のまちについて話し合う ⇒発表 ⇒話題をグルーピング
15:15 (15 分)	クロージング	・ 本日のまとめ
15:30	終了	

【ワークショップ1回目の様子】



【ワークショップ1回目のまとめ】

小学生から65歳以上の高齢者まで、幅広い世代の参加者を募った。まず世代別のグループで地域の良いところ、課題についてグループディスカッションを実施した。各世代から『環境・自然』、『健康・福祉』、『子ども・教育』、『都市・交通』、『地域経済』にカテゴリー化される意見が多く得られた。例えば、「公園が多い」、「街がきれいである」といった環境面の良い点が挙げられた一方で、「バスの本数が少ない」、「駐車場が狭い」といった交通事情に関する課題点が挙げられた(表1 参照)。次に、多世代によるグループに分かれ、理想のまちについてディスカッションを実施した。結果、最初のディスカッションでは意見の少なかった『地域社会』に分類される意見が多く聞かれた。例として、「何かあった時に助け合える」、「異世代コミュニケーションの活性」、「廃校などを利用して異世代交流を図る」といった意見が得られた(表2)。参加者は、地域の中で各世代が関わり合い、協力し合えるようなまちを理想としていることが明らかとなった。

表1. 参加者が挙げたまちの良いところ・課題

	環境・自然	安心・安全	健康・福祉	子供・教育	地域社会	文化・スポーツ	都市・交通	地域経済
良いところ	- 公園 - 緑が多い - 環境がよい - 街がきれい - 家を建てる土地がある	- 治安が良い - 犯罪が少ない	- 病院が多い - 薬局が近くにある - デイサービスが多い - 優しい人が多い	- 校庭が名古屋1広い - 体育館が使いやすい - 教育熱心 - 小学校が多い - 学校のレベルが高い		- 伝統芸能が盛ん - 柴田勝家の出身地	- リニモの始発点 - 電車の本数が多い - 交通の便が良い - 地下鉄沿線	- スーパー銭湯が多い - 買い物できる場所が多い
課題		- 夜が暗い - 電灯が少なく暗い - 防犯が十分でない - 空き巣が多い	高齢者世帯が多い	- 部活が少ない - 学力が高い - 教育熱心の間 - 子ども会が減っている - 子育て世代が消極的 - 子供が少ない - 外で遊ぶ子供たちが少ない	自治会の役員のなり手が少ない	- 図書館の本が少ない - イベントが少ない	- バスの本数が多い - 歩道橋が多い - 水道水がまずい - 歩道が狭い - 駐車場が狭い - 坂が多い - 図書館へ行きにくい	- 大規模なテーマパークがない - パンダがない - 流行りのお店の有無の差がある - 映画館がない - 揚げパン屋がない

* 黄色：数多く意見を得たカテゴリ

水色：2つ意見が得られたカテゴリ

白色：0もしくは1つのみ意見を得たカテゴリ

表2. 参加者が挙げた理想のまち

	環境・自然	安心・安全	健康・福祉	子供・教育	地域社会	文化・スポーツ	都市・交通	地域経済
理想のまち		電灯が多く明るい街		- シニアの経験を活かした部活運営 - 気軽に行ける子ども食堂を	- 同世代間の落ち着き - 何かあった場合、助け合える - 異世代間コミュニケーションの活性 - 廃校などを利用して世代間交流できる施設を作る	多世代が参加できるスポーツを(しっかり広報をする)	- バスが増える - 大きい道路にエレベーター	- 飲食店をたくさん増やす - 個人の店が計画的に発展できる - 大きいショッピングモールが欲しい - 商店街が欲しい(服・文具・カードショップ)

* 黄色：「良いところ・課題」で得た意見数との差が一番多かったカテゴリ

ワークショップ 2 回目

日時：2025 年 3 月 23 日（日）

場所：医療法人白楊会 白楊会病院会議室

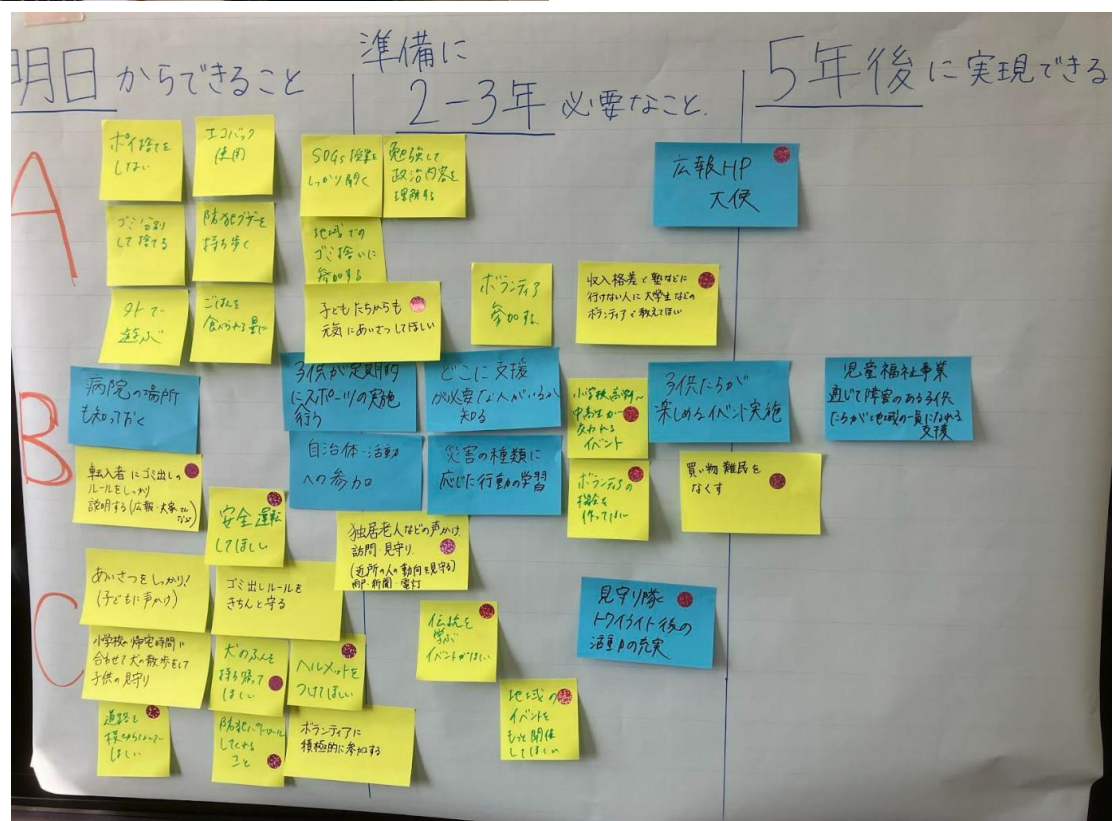
内容：地域における自身の役割と多世代に期待することについて話し合い、各世代の人々が地域でできることを検討する。

参加者：18 名

【ワークショップ 2 回目の流れ】

時間	狙い/目標	活動内容/問い
13:30 (10 分)	オープニング	導入 ・ 本事業の説明 ・ まちづくりのスライド
13:40 (15 分)	関係性を高める	アイスブレイク ・ 自己紹介 ・ ペーパークラフト
14:00 (15 分)	前回のまとめと 本日の流れなど	・ 前回のおさらいとまとめ ・ 今回のワークショップの実施内容と目標 ・ 「役割」がもたらすもの
14:15 (10 分)	個人作業	・ わたしの地域での役割 ・ 役割の可能性
14:20 (20 分)	グループワーク	・ 世代別（3 グループ） わたしの地域での役割 他世代に期待すること
14:40 (20 分)	休憩	
15:00 (15 分)	まとめ	グループワークででた意見を以下の内容に カテゴリー化 ・ 明日からできること ・ 準備に 2-3 年必要なこと ・ 5 年後に実現できること
15:20 (10 分)	クロージング	・ 本日のまとめ

A group of people, including students and staff, are gathered in a room with large windows. They are engaged in various activities, some standing and talking, others sitting at tables. A digital clock on the wall shows 08:02:41. The room has a modern, bright atmosphere with large windows and a digital display.



【ワークショップ2回目のまとめ】

1回目のワークショップと同様に、幅広い世代の参加を募った。前回の振り返りとして、表1および表2で示した内容を伝え、参加者の方の関心が「多世代」、「コミュニケーション」、「交流」というキーワードにあることを共有した。さらに、今回のテーマである「役割」に関する作業療法学視点でのとらえ方と、地域の中で役割をもつ意義について簡単なレクチャーを実施した。その後、まずは個々で自身の地域における役割を考え、続いてグループにて地域における役割に関するディスカッションを行った。得られた結果に関し、実現可能であると考えられる時間軸でまとめた。結果、多世代が参加・交流できるイベントの開催やボランティアの機会をつくることなどが、いわゆる中年世代に求められていること、そして小中学生はそのような機会への参加を希望していることが明らかとなった。また、65歳以上の高齢者には、伝統の継承、子どもたちの見守りボランティア活動などの地域での役割を担っている、あるいは求められていることが明らかとなった。

ワークショップ終了後にはオンラインアンケートを実施し、実現したい地域での役割活動について「小さい子供たちの見守り」「みんなで防犯パトロール」「子育て支援、外国人支援、広報支援」「地域の人に元気よくあいさつする」「地域防災に関する活動」「ゴミ拾い」といった意見も挙げられた。各世代の参加者が、自身でできるや他世代に求めることを考える機会となったと考えられる。

全体のまとめ

今回のワークショップを通し、各世代の地域住民の方々の中には、まちの中で役割をもって生活することを望んでいる者もいるということが明らかとなった。しかし、現状での課題として、地域で何が行われているのかを知る機会や方法がないこと、何か地域のために貢献したいという気持ちがあってもその手段や方法が分からないことなどが挙げられた。まちづくりへの興味はあっても、行動に移すきっかけが少ないことも、本ワークショップで明らかとなった点である。

人は生きていく中で、学業、仕事、子育て、介護などの役割を担い、それらを行うことで自己肯定感、自己効力感を得ていくとされている。我々作業療法士は、人の生活を支援するリハビリテーション専門職であり、対象者の方の「役割」を遂行するのをサポートする必要がある。今回のワークショップは、参加者の方々が、各世代がこの「役割」をもって地域生活ができるまちを考えるきっかけとなったと考える。今後も作業療法士として、「役割」を社会の中で生かすことのできる地域づくりを目指していきたい。

次年度以降への展望

次年度以降、今年度の意見だしを踏まえ、具体的な実現可能性の検討、自治体や地区商店街との連携など、具体的な地域創生に向けた活動の展開を目指す。